

神経内科

1. 概要

2016年のスタッフは、昨年同様5名で診療に当たった。

総入院患者数は年々増え、2016年は昨年より100人余り増加し、795人であった。また、常に定床をオーバーしており、多くの病棟に入院患者が分散したため、回診が大変であった。今年度の主なトピックは、以下のごとくである。

- ① ギランバレー症候群が多く、例年数名のところ、今年度はフィッシャー症候群を含め14名の入院があった。
- ② 相変わらず高齢者のてんかんが多い。
- ③ 脳表ヘモジデリン沈着症や肥厚性硬膜炎など比較的珍しい例もあった。
- ④ 退院・転院に際し、家族背景や社会的背景の難しい患者が相変わらず多く、患者総合支援センターのお世話になっている。

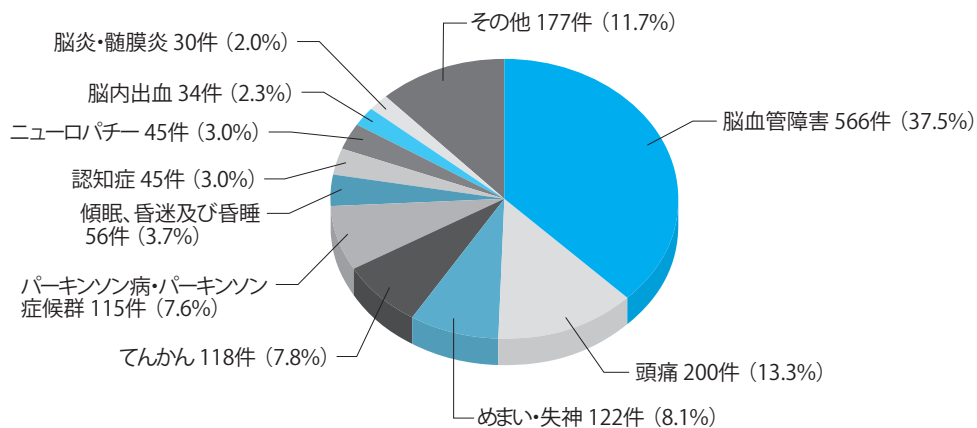
外来の年間受診者総数は8,894人で例年同様、その内初診者数は1,113人と選定療養費の影響でやや減少したものの、紹介状持参の予約外患者が増えており、対応に苦慮している。

(部長 岩井 克成)

(文責 前部長 李野 謙次)

2. 新規登録疾患

総数：1,508件



疾患名	主となるICD-10病名	件数(件)	ICD-10
脳血管障害	脳動脈の血栓症による脳梗塞	241	I633
	脳動脈の塞栓症による脳梗塞	118	I634
頭痛	頭痛	159	R51
	緊張性頭痛	22	G442
めまい・失神	めまい感及びよろめき感	106	R42
	失神及び虚脱	16	R55
てんかん	その他のてんかん	47	G408
	てんかん, 詳細不明	43	G409
パーキンソン病・パーキンソン症候群	パーキンソン病	102	G20
傾眠, 昏迷及び昏睡	昏睡, 詳細不明	56	R402
認知症	アルツハイマー病, 詳細不明	28	G309
ニューロパチー	多発(性)ニューロパチー, 詳細不明	24	G629
	ギラン・バレー症候群	14	G610
脳内出血	(大脳)半球の脳内出血, 皮質下	21	I610
脳炎・髄膜炎	脳炎, 脊髄炎及び脳脊髄炎, 詳細不明	7	G049
	急性播種性脳炎	5	G040

3. 活動報告

(1) 患者状況

年間外来患者数	12,093人	年間外来新患者数	1,488人
年間入院患者数	17,118人	年間入院新患者数	808人

(2) 神経難病6疾患

	疾患名	件数(件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	161
2	多系統萎縮症	6
3	脊髄小脳変性症	6
4	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	9
5	重症筋無力症	15
6	多発性硬化症	14
	計	211

学会発表（医局）

<神経内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	開催地	発表年月日
1	急性期脳梗塞患者の自宅退院に関わる因子の検討	筆頭演者	大山 健	第41回日本脳卒中学会総会	札幌市	2016/4/14
2	慢性炎症性脱髄性多発神経炎(CIDP)における骨格筋の定量的評価	筆頭演者	大山 健	第27回日本末梢神経学会学術集会	大阪市	2016/8/26